



# 大阪の 社会福祉

The social welfare in OSAKA

2026

1

No.843

大阪の社会福祉 No.843

令和8年1月発行(奇数月1回発行) 発行/社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会 編集・発行人/市社協  
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 (大阪市立社会福祉センター内) Tel.06-6765-5601 Fax.06-6765-5605 <https://www.osaka-sishakyo.jp>

新年あけましておめでとうございます。  
皆さまにおかれましては、健康やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。  
さて、わが国では人口減少・単身世帯の増加等の社会構造の変化に伴い、家族や地域における人のつながりは希薄化し続けています。近年は、身寄りのない高齢者の入退院や施設の入退所、自分では出来ない諸手続き等の課題が顕在化し、そのための新たな支援策の創設・実施が議論されています。さらに総合的な権利擁護支援制度の充実についても検討され、地域共生社会の深化を図るための提言がとりまとめられています。  
また昨年には災害対策基本法等の改正がなされ、長年の要望であった被災者への福祉サービスの提供が拡充されて生活環境の整備が拡充されました。発災時の緊急対応から生活再建までの対応、さまざまな配慮を必要とする人々へのきめ細かな支援体制、そのための日頃からの切れ目のない支援の整備と連携の強化が課題となっています。  
昨年は全国社会福祉協議会



社会福祉法人  
大阪市社会福祉協議会  
会長 永岡正己

令和8年  
年頭あいさつ

が、社協の活動・事業、組織の考え方や方向性を示す指針として「社会福祉協議会基本要項2025」を策定しました。1992年の「新・社会福祉協議会基本要項」策定以降の社会・経済の変化と今後の動きも見据えて33年ぶりに見直された基本要項では、「ともに生きる豊かな地域社会づくり」が社協の使命として掲げられています。社会福祉協議会は住民主体の理念のもと、協働によって、誰もが孤立せずに、自分らしい生活を送ることができる社会の実現に向けた取り組みを進めることが求められています。  
本会では昨年から「今後の社協のあり方検討委員会」を設置し、多くの職員が参加して、大阪市の協のあるべき姿について議論を進めています。地域社会を取り巻く状況をふまえ、地域の人々の暮らしに必要な事業・活動とは何かを問いながら、これからの展望を明らかにし、地域福祉推進の中心的な団体としての本会の役割を果たしていく所存です。  
本年も多くの関係者の皆さまと力を合わせて、「一人ひとりの人権が尊重されるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」に、各区社協とともに役員一同全力で取り組んでまいりますので、皆さまのご支援・ご協力のほどどうぞよろしく願います。  
結びに、皆さま方のご健勝とご多幸をお祈り申しあげまして、新年のごあいさついたします。

歩けなくなった妻に要介護4の認定が出た。本人は介護保険の対象であるが、包括支援センターに相談したら、さっそくケアマネジャーがやってきた。▼親切にいろいろ提案をしてくれるのだが、聞いていて本人の表情が硬くなっていく。例えば、退院後、整形外科医院に通っているのだが、介護保険の施設なら、送迎もしてくれて、費用もほとんどかからないと、デイケアや老健を提案してくれる。入院していた病院で退院を訴え続けて、やっと近所の医院に通うことを受け入れたところなのに、また別のところに行けと言われても、本人は納得できない▼それがわからないケアマネさんの親切はどんどんエスカレートして、ヘルパーも来てくれるし、介護用品も貸し出せるしと、調子が出てきた。私も1か月に1回は訪問し、とケアマネさんが言ったところ、彼女の限界が来たのが分かった▼とりあえず、ケアマネさんには引き取ってもらって、二人で話すと、私のへそくりを出すから、介護保険はもうやめてと来た。本人のプライドや意思が大切だということが理解できないケアマネさんに当たってしまったのだ。この仕事を14年もしていると言っていたが、どれだけたくさん人の気持ちが踏みにじられていたのかと思う▼改正が検討されている制度だが、本人負担の増額とかのお金の計算よりも、本人やその家族の思いを尊重できる人が一人でも多く増えてほしい。(石)



社会福祉法人  
大阪市社会福祉協議会

令和7年度

## 大阪市生活保護施設連盟 職員研修会を開催



大阪市社会事業施設協議会の加盟団体の一つである、大阪市生活保護施設連盟(加盟施設:20施設)は、11月11日に中央区のなんばスカイオで職員研修会を開催しました。市社協の善意銀行からの助成を受け、大阪市福祉局保護課・自立支援課の担当職員の方々にもご出席していただき意見交換ができる機会として、参加型での職員研修会を開催しました。



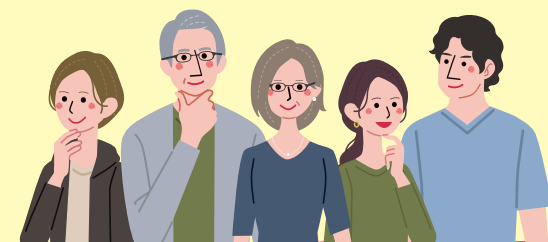
当日は、約45人が参加し、川端均会長のご挨拶から始まり、講師として大阪公立大学生活科学研究科の垣田祐介教授を招き、「居住面の生活困窮の実態と居住支援の課題」について学びました。国際的視点からの日本のホームレスや不安定居住についての定義の違いや2年間の調査研究事業における「分類」「全体像」と「その把握」を通じて、現在の都市が抱える課題背景を踏まえて、政策課題としての共通認識や日常業務へのフィードバックへの考え方など、参加者にとって非常に充実した内容の研修会となりました。

令和7年度

参加費無料!

参加者募集!

## 地域福祉シンポジウム 不登校・ひきこもりについて考える



ゆるふわでええやん!~それでいいんだよって  
言ってくれる第3の大人の必要性~

定員 250人 ※事前  
申込制・  
先着順

対象 テーマに関心の  
ある市民、関係者

開催日時 令和8年 3月7日(土) 午後2時~4時

開催場所 たかつガーデン 8階 大阪市天王寺区東高津町7-11

令和6年度に文部科学省が全国の不登校児童・生徒数が353,970人と公表し、大阪市も同年度に独自調査をおこなった結果、小学校では2,294人、中学校では4,893人の不登校児童・生徒がいる現状です。そこで、本シンポジウムは、今回大阪市社協と大阪市地域福祉施設協議会が初めて共催し、こども・若者の不登校・ひきこもりにおいて、実際に取り組んでいる団体から活動報告や活動への思いなどを聞いた後、会場全体でのディスカッションを通して自分たちに何ができるのかを考え、地域福祉活動の活性化を図ります。



昨年の地域福祉シンポジウム

コーディネーター

特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会  
事務局長 西野伸一さん

実践報告者

区社会福祉協議会(調整中)  
みなみのばたの会 金カラクさん  
バザールカフェ 松浦千恵さん

申込み  
方法 申込みフォームから  
お申込みください



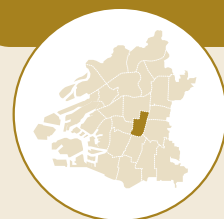
申込期日 令和8年3月4日(水)

共催 大阪市社会福祉協議会  
特定非営利活動法人 大阪市地域福祉施設協議会

問合せ先 大阪市社会福祉協議会(担当:福祉部)

TEL 06-6765-5606 E-mail: [fukusi@osaka-sishakyo.jp](mailto:fukusi@osaka-sishakyo.jp)





## 地域福祉活動が学生の豊かな経験の場に 味原地域ふれあい喫茶での 取り組み

天王寺区社協は、高校や専門学校等と、街頭募金活動をはじめ、協働できる取組みを進めています。また、学生と地域活動者が交流できる機会や地域活動者が学校に出向いて地域活動の魅力について話す機会などもつくっています。

そうしたなかでも今回は、地域と学生が協働している味原地域での取組みについて紹介します。

### ■青空の下で心地よい時間を

天王寺区の味原地域では、11月15日に味原小学校の芝生開放デーに合わせて、同校の校庭でふれあい喫茶が開催されました。普段は、毎月第2土曜日（7、8月を除く）に味原会館で開催されていますが、この日は



▲地域と学生が協働して活動  
(前列左:佐藤さん、前列右:三木さん)

### ■学生がボランティア活動に参加

さわやかな秋晴れのもと、バーやミニコンサート等もおこなわれ、普段からふれあい喫茶に参加されている方や小学校に通っている児童、PTAの方など多くの参加がありました。



▲学生と参加者が交流して賑わいました

の提供時には参加者に「あたたかいうちにお召しあがりください」「ごゆっくりどうぞ」など一言添えるよう、コミュニケーションを意識して取り組んでいました。

### ■参加のきっかけはさまざま

学生に参加したきっかけを聞いてみると、「自発的に参加してみたいと思ったからです」「学校の先生が声をかけてくれました」「友だちが誘ってくれましたので、参加してみようと思いました」などきっかけはさまざまでした。

続けて、学生に活動中に心がけたことを尋ねると、「参加者とのコミュニケーションを大切にし、丁寧な対応を意識しました」との回答が多くありました。

終了後、参加した感想では、「たくさんの方と関わって楽しかったです」「思っていたほど大変では



▲ほっと一息つく学生たち

なく、気軽に活動できると感じました」「ありがとうと感謝されると、とてもうれしかったです」と笑顔で話しました。

### ■学生にとっても地域にとっても豊かな取組みに

参加者を見送り、活動のふりかえりをしたなかで、同地域のボランティア代表の三木克子さんと佐藤和代さんからは、「テキパキと動いてくれて助かったよ」「参加者に声をかけをしてコミュニケーションを図ることで自信になったのでは」「また次の機会にも参加してほしいです」と労いの言葉がありました。

学生の参加を調整した区社協の上野志穂地域支援担当係長は、「学生が楽しんで活動できたことがよかったです。区内の各地域ではさまざまな活動がおこなわれていますが、担い手の課題も多くあります。今回のように、そこに居住はしていませんが、同区に通っている学生も担い手として、考えることができる取組みとなり、継続した取組みにつながるとうれしく思います。また、味原地域以外でも、学生が活躍できる機会をつくりながら、地域福祉活動の継続や発展につなげていきたいです」と話しました。



## 実は、若者は地域活動に参加したい!? ボランティア意識調査 アンケート報告会を開催

浪速区社協では、令和7年2月12日から3月30日の期間に、地域活動やボランティアに関する意識調査を実施しました。総数688件の回答が寄せられ、11月18日にアンケート結果の報告会を開催しました。

### ■アンケート調査で、予想以上の回答を回収

浪速区社協は、地域活動者から、「ワンルームマンションが増えているが、どのような人が住んでいるのかが分からなくて不安」「若い人に地域活動に参加してほしいけれど、きっかけが見つからない」などの声を聞き、地域活動の新たな参加者を募り、後継者づくりにつながるヒントを探るべく、大規模なアンケート調査を実施しました。

広報誌「浪速区社会福祉協議会だより」で告知し、2次元コードからフォームで回答を集めま



▲四井さんから分析した調査結果の報告



▲アンケート調査結果をもとに若者の特徴や地域活動の参加を妨げる要因、効果的なアプローチ方法などを議論

各地区の民生委員、地域福祉サポーター等の方々の参加がありました。7班に分かれて調査結果の報告を受けたのち、班ごとによるグループワークを実施し、さまざまな意見交換をおこないました。

### ■区民の潜在的な地域活動参加ニーズが判明

最初の調査結果の報告については、調査会社として今回のアンケート調査に参加した有有限会社CR・ASSISTの四井恵介さんが登壇し、多岐の質問項目にわたる詳細な分析結果を報告



▲鈴木先生(中央)の進行のもと、各班から意見交換した内容を共有

しました。今回のアンケートでは、予想を超えてご近所付き合いについて、35～50歳で75%、20～35歳の若い世代でも6割以上が「大切」とする回答がありました。その理由として、日常の支え合いや災害時の助け合いが挙げられていました。地域活動の魅力についても、どの年代でも「楽しさ・やりがい」「仲間ができる」が高い割合を占めながらも、特に若年層では、「地域や社会をよくすることができ」「人の役に立てる」といった社会貢献的な側面を重視する傾向があることがわかりました。

地域活動をしている方の割合は、全体的に少ないものの、65歳以上で多いことが明らかにになりましたが、「活動はしていな

いが興味がある」という層が各年代に一定数存在していることが判明しました。このなかでも特に、若者をどう地域活動に引き込んでいけるかをテーマに、グループワークで議論されることとなりました。

### ■はじめの一歩の後押しへ

グループワークは、鈴木大介准教授(大阪成蹊短期大学)がコーディネーターとなり実施され、最終的に各班から結果が発表されました。「親子で気軽に参加できるようなオープンなイベントからつながりを持つ」「負担のないイベント(来て楽しむだけでよい)」に誘ってみる「現状開催されている行事内で、一部若者層を集客できる催しをプラスしてみる」等々の貴重な意見が出されました。

報告会終了後、区社協の杉岡春紀地域支援担当主事は、「アンケート結果から、若い人も地域のつながりが大切だと思っており、地域活動に関心があることがわかりました。今回は区域で話し合いましたが、各地域でも話し合いをおこない、これから一緒に考えていきたいです」と話しました。





## 交流を通して 福祉への気づき につなげる

### 堀江中学校

#### 動画を作成して継続した福祉教育に

大阪市内では、車いすやアイマスクなどの体験学習だけではなく、当事者による講話や交流、障がい者スポーツのプログラムをはじめ、地域や社会福祉施設など多様な機関と協働した福祉教育に取り組んでいます。

福祉教育は、「当事者性を高める実践」であると言われていきます。体験学習や講座・交流などを通して、福祉を我が事にするきっかけづくりにもなります。

今回は、西区社協が堀江中学校、西船場小学校でさまざまな団体や福祉教育サポーターなどと協働して福祉教育をおこない、交流を通しての「学び」を意識して展開した内容について紹介します。

堀江中学校では、認知症への理解を深める福祉教育をおこないました。全校生徒が持っているタブレットで視聴できるよう、認知症の学びにつながる動画を作成することとし、当事者やその家族、医師、歯科医師、薬剤師、地域の身近な相談窓口である見守りコーディネーター、地域活動者などへインタビューし、その様子を撮影しました。インタビューでは、活動・仕事紹介、当事者の暮らしぶり、寄り添う時に気をつけていることなどを答えていただき、それぞれの立場だからわかることや視点に

### 福祉教育って？

福祉教育は、すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支えあい、一人ひとりが生きる喜びを感じることができる、「地域共生社会」の実現に向けた取り組みです。

学校でこどもだけを対象とした取り組みだけでなく、地域や企業などを対象とした講座やボランティア活動での学びを通して「ともに生きる力」を育むことを目的にして、ふだんのくらしのしあわせをつくるために、相手の立場になって「自分なら何ができるか」を考え、行動していくために何が必要なのかを学ぶことができる取り組みです。

終了後、生徒たちからは、「自分や身近な人も認知症になる可能性があることを知ることができてよかった」「インタビューで学んだことを友達や周りの人に伝え、知ってほしいと思った」「今日の学びを将来に活かしたい」等の感想がありました。動画は保護者や地域の研修等でも活用される予定です。



ついて学ぶことができる動画となりました。今回は、10月24日に堀江中学校生徒会の4人が代表して、校区内の歯科医院や薬局を回り、インタビューしました。当日は生徒たちから歯科医師や薬剤師へ、「仕事で認知症の方と関わる

### 西船場小学校

#### 交流して対話することで理解を深める機会に

西船場小学校では、障がいへの理解を深める福祉教育をおこないました。11月13日と11月20日に小学5年生約70人を対象として、NPO法人Cafe MILLOや福祉教育サポーターの阿部和子さん、北村恭司さん、山本志保さんの3人と協働して、障がい事業所職員の講話を聞いた後、ボッチャを通して障がいのある方々と交流の機会をもちました。

学校側の、「障がいの話だけではわからないことがある。当事者と一緒に交流することが一番理解につながり、考える機会になるのではないか」との思いから今回の取り組みを実施することとなりました。



▲Cafe MILLO、福祉教育サポーター、区社協職員のみなさん

当事者が児童のチームに入り、各グループで自己紹介をした後、パラリンピックの競技でもあるボッチャを通して、児童と当事者が交流しました。実際のルールに沿った試合形式でおこない、福祉教育サポーターや区社協職員が審判で補助しつつ、「どんまいどんまい！」などと声をかけあって交流を楽しみました。

初めて交流してみても、児童からは、「一緒にボッチャができて楽しかった」「いろいろとお話もできて楽しかった」などの感想がありました。また、休憩中には、「児童と当事者が「好きな教科は何？」「何している時が楽しい？」などの質問をし合い、お互いの理解へとつながりました。最後は、全員で手話を交えて「虹を歌い、終了しました。」

\*福祉教育サポーターとは  
西区社協が令和6年度に開催した小学校や地域で福祉教育を実施する際にサポートしていただけるボランティアを養成する講座を修了した方



▲区社協職員と福祉教育サポーターでボッチャのルール確認



## 学生へ福祉の魅力を発信 福祉のおしごと魅力発見ミーティング

### 福祉の魅力発信

市社協と大阪市社会事業施設協議会（経営委員会）、大阪市福祉人材養成連絡協議会の共催により、「福祉のおしごと魅力発見ミーティング」を11月22日、リファレンス大阪駅前第4ビルで開催しました。このイベントは、

学生へ福祉の仕事の魅力を発信し、将来の職業として志す人を増やしていくことを目的としたものです。

#### 普段の仕事内容ややりがいを紹介

学校でのチャシ配架や先生からの紹介等で、高校生や専門学



▲登壇した施設で働く若手職員

校生、短期大学生、大学生（大阪府・京都府・兵庫県下）など計24人の学生が会場・オンラインで参加しました。主催団体からの挨拶の後、市社協職員の進行のもと、さまざまな分野の社会福祉施設で働く若手職員10人が、加盟する団体の紹介や施設の役割、仕事内容、やりがい等を紹介しました。

発表では、「児童養護施設では、保護者と一緒に暮らせないこどもたちの支援と施設でしかできない体験を通して、こどもも職員も一緒に成長できること」「母子生活支援施設では母子ともに成長や変化をみることができ、そこが魅力です」「障がいを抱えている方の中にはコミュニケーションが苦手な方もいるが、毎日、少しずつ関わることで、徐々に心を開いてくれることが頑張つて良かったと思える」と仕事のやりがいや伝えました。また、「学童では多くの行事に取り組んでいるが、指導員が全て決めるのではなく、こどもたちのやりた



▲さまざまな分野の若手職員から仕事の魅力を参加者へ熱く伝えました

いことを一緒に考えることを大事にしている」「介護施設に入ることが人生のゴールではなく、介護のプロがいることで介護施設に入所した先の未来が輝いてくる。その人の未来をつくれる、輝かせることもできる」と日々の思いを参加者に届けました。

後半は、質問用紙を使って学生からの質問や感想を募り、「福祉業界を選んだきっかけ」「就職活動の進め方」「職場の人間関係や雰囲気」「利用者とのようなことを意識してコミュニケーションをとっているのか」などをテーマに全体でパネルトークを進めました。



▲フリップを用いてパネルトーク

### 参加者の声

- 知らない施設のことやこんな事業もしているのかといった新しい発見があり、とても勉強になった。
- パネルトークで職員さんの考えを知れて、自分のなかで、こんな支援者になりたいという考えを深めることができた。
- 将来、福祉の道に進もうとは決めているが、分野をまだ絞れていないため、今回、幅広い分野の職を知ることができて、良い機会になった。また、実際に働いている職員の生の声を聴くことができて、説得力を感じた。



|   |   |  |
|---|---|--|
| <div>大阪市社会事業施設協議会</div> <div>会 長 川 端 均 (大阪市生活保護施設連盟)<br/>副会長 岡 本 佳 久 (大阪市児童福祉施設連盟)<br/>副会長 寺 田 崇 雄 (大阪市保育連合会)<br/>副会長 新 田 正 尚 (大阪市老人福祉施設連盟)<br/>副会長 加 藤 久 美 (大阪市地域福祉施設協議会)<br/>副会長 山 内 泰 典 (大阪市障害児・者施設連絡協議会)</div> <div>【事務局】 〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6765-5606 FAX 6765-5607</div> |   | 公益社団法人<br>大阪市ひとり親家庭<br>福祉連合会<br>会 長 北 玲 子<br>〒531-0071<br>大阪市北区中津1-4-10<br>大阪市立愛光会館内<br>電話 6371-7146 FAX 6371-6722<br>https://www.hitoren-osaka.org  |
| <div>社会福祉法人<br/>大阪自彊館</div> <div>理事長 川 端 均</div> <div>〒557-0014<br/>大阪市西成区天下茶屋1-3-17<br/>電話 6659-8181 FAX 6652-2218<br/>http://www.ojk.or.jp</div>  | 社会福祉法人 白 寿 会<br><div>理事長 新 田 正 尚</div> <div>〒557-0063<br/>大阪市西成区南津守7丁目12番32号<br/>電話 6651-2210<br/>FAX 6651-6060<br/>https://www.hakujuen.or.jp</div>  | 社会福祉法人 育 徳 園<br><div>理事長 早 川 誠 次</div> <div>〒545-0021<br/>大阪市阿倍野区阪南町5-12-5<br/>電話・FAX 6655-1718<br/>https://ikutokuen.or.jp</div> <div></div> |
| <div>一般社団法人<br/>大阪市私立保育連盟</div> <div>会 長 寺 田 崇 雄<br/>会員一同</div> <div>〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6761-1171<br/>http://o-shihoren.or.jp/</div>   | <div>赤い羽根共同募金</div> <div>社会福祉法人<br/>大阪府共同募金会</div> <div>会 長 多 田 龍 弘</div> <div>〒542-0065<br/>大阪市中央区中寺1-1-54<br/>大阪社会福祉指導センター2階<br/>電話 6762-8717 FAX 6762-8718<br/>https://akaihane-osaka.or.jp</div> <div></div>   | 社会福祉法人<br>大阪府社会福祉協議会<br>会 長 井手之上 優<br>副 会 長 大 西 豊 美<br>副 会 長 永 井 由美子<br>常務理事 森 垣 学<br><div>〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54<br/>電話 6762-9471 FAX 6764-5374<br/>https://www.osakafusyakyo.or.jp</div>                                     |
| <div>特定非営利活動法人<br/>大阪市地域福祉施設協議会</div> <div>会 長 加 藤 久 美<br/>会員一同</div> <div>〒557-0004 西成区萩之茶屋2-9-2<br/>わかくさ保育園内<br/>電話 6633-2965 FAX 6633-2970</div>   | <div>一般社団法人<br/>大阪市老人福祉施設連盟</div> <div>代表理事 上 田 幸 生</div> <div>〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6765-3611 FAX 6765-3612<br/>https://sirouren.jp</div>  | <div>一般社団法人<br/>大阪市児童福祉施設連盟</div> <div>会 長 岡 本 佳 久<br/>児童養護施設 母子生活支援施設<br/>児童自立支援施設 乳児院<br/>児童心理治療施設 福祉型障害児入所施設<br/>児童発達支援センター</div> <div>【事務局】社会福祉法人 大念仏寺社会事業団<br/>〒547-0045 平野区平野上町1-7-3<br/>電話 6791-5410 FAX 6791-7774</div>  |
| <div>障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように<br/>社会福祉法人<br/>大阪市手をつなぐ<br/>育成会</div> <div>理事長 長谷川 美智代<br/>役員・会員一同</div> <div>〒543-0021大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6765-5621 FAX 6765-5623</div> <div></div>                      | <div>大阪市障害児・者施設連絡協議会</div> <div>会 長 山 内 泰 典<br/>会員一同</div> <div>〒533-0014 大阪市東淀川区豊新1-3-3<br/>あすわ〜く 内<br/>電話 080-4760-8215 FAX 06-6815-0255<br/>http://www.ossk.org</div>  | <div>みおつくしクラブ大阪 (愛称)</div> <div>一般社団法人<br/>大阪市老人クラブ連合会</div> <div>理事長 野 口 一 郎</div> <div>〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター3階<br/>電話 4304-8555 FAX 4304-8557</div>  |
| <div>大阪市生活保護施設連盟</div> <div>会 長 川端 均<br/>会員一同</div> <div>【事務局】救護施設 平和寮 内<br/>〒545-0011<br/>大阪市阿倍野区昭和町3-4-2 7<br/>電話 6628-6151<br/>FAX 6628-0441</div>   | <div>社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会</div> <div>理事長 石 田 易 司</div> <div>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12番10号 電話 06-6767-9981</div> <div>【運営事業所一覧】<br/>大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター<br/>大阪市更生療育センター ワークセンター中津 ワークセンター中授 ワークセンター千里<br/>大阪市立此花作業指導所 ワークセンター粉浜 中津サテライトオフィス 大阪市立早川福祉会館<br/>サテライト・オフィス平野 大阪市障がい者相談支援研修センター 大阪市職業指導センター<br/>大阪市職業リハビリテーションセンター 大阪市障がい者就業・生活支援センター<br/>大阪市発達障がい者支援センター「エルムおおさか」</div> |  |

# 令和8年 元旦

## 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

会 長 永岡 正己

副会長 清水 弘／多田 龍弘／小嶋 憲子／川端 均／前田 葉子

|                          |          |                          |          |
|--------------------------|----------|--------------------------|----------|
| 社会福祉法人<br>大阪市北区社会福祉協議会   | 会長 岸本 恒夫 | 社会福祉法人<br>大阪市都島区社会福祉協議会  | 会長 前田 起平 |
| 社会福祉法人<br>大阪市福島区社会福祉協議会  | 会長 小西 克彦 | 社会福祉法人<br>大阪市此花区社会福祉協議会  | 会長 岩井 政人 |
| 社会福祉法人<br>大阪市中央区社会福祉協議会  | 会長 浦野 皖次 | 社会福祉法人<br>大阪市西区社会福祉協議会   | 会長 田深 欣寛 |
| 社会福祉法人<br>大阪市港区社会福祉協議会   | 会長 上田 哲夫 | 社会福祉法人<br>大阪市大正区社会福祉協議会  | 会長 川上 満  |
| 社会福祉法人<br>大阪市天王寺区社会福祉協議会 | 会長 一本松三雪 | 社会福祉法人<br>大阪市浪速区社会福祉協議会  | 会長 田中 一彦 |
| 社会福祉法人<br>大阪市西淀川区社会福祉協議会 | 会長 大垣 純一 | 社会福祉法人<br>大阪市淀川区社会福祉協議会  | 会長 三田 和夫 |
| 社会福祉法人<br>大阪市東淀川区社会福祉協議会 | 会長 吉田 正則 | 社会福祉法人<br>大阪市東成区社会福祉協議会  | 会長 清水 弘  |
| 社会福祉法人<br>大阪市生野区社会福祉協議会  | 会長 多田 龍弘 | 社会福祉法人<br>大阪市旭区社会福祉協議会   | 会長 宮本 正路 |
| 社会福祉法人<br>大阪市城東区社会福祉協議会  | 会長 高木 正博 | 社会福祉法人<br>大阪市鶴見区社会福祉協議会  | 会長 中田 俊二 |
| 社会福祉法人<br>大阪市阿倍野区社会福祉協議会 | 会長 永岡 正己 | 社会福祉法人<br>大阪市住之江区社会福祉協議会 | 会長 久保 道伸 |
| 社会福祉法人<br>大阪市住吉区社会福祉協議会  | 会長 伊藤美世子 | 社会福祉法人<br>大阪市東住吉区社会福祉協議会 | 会長 川本 公夫 |
| 社会福祉法人<br>大阪市平野区社会福祉協議会  | 会長 林 幸男  | 社会福祉法人<br>大阪市西成区社会福祉協議会  | 会長 越村 市二 |

|   |  |
|---|--|
| <div>支えあう 住みよい社会 地域から<br/>大阪市民生委員児童委員協議会</div> <div>会 長 小 嶋 憲 子<br/>副会長 栗 野 太一郎<br/>副会長 山 本 文 雄<br/>副会長 中 島 正 人</div> <div>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6765-5609 FAX 6765-5603<br/>https://osakashi-minjikyo.jp</div> | <div>一般財団法人<br/>大阪市身体障害者団体協議会</div> <div>会 長 手 嶋 勇 一<br/>副会長 川 越 利 信<br/>副会長 廣 田 しづえ<br/>副会長 山 梨 徳 治</div> <div>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6765-5636 FAX 6765-7407<br/>http://shishinkyo.o.oo7.jp</div> |
|---|--|





|  |  |  |
|--|--|--|
| <div>社会福祉法人<br/><b>大念仏寺社会事業団</b></div> <div>理事長 杉 田 善 久</div> <div>大念仏乳児院、ボ・ドーム大念仏、<br/>ボ・ドーム、子どもの家「童夢」、いちよう保育園、<br/>いちようベビーセンター、ひらのドリーム園、<br/>南生野いちよう保育園、<br/>ドレミ広場、タイガー・ダイヤモンドルーム<br/>〒547-0045 大阪市平野区平野上町1-7-3<br/>電話 6791-5410 FAX 6791-7774</div>   | <div>社会福祉法人<br/><b>尚 和 会</b></div> <div>理事長 森 山 亜矢子</div> <div>なのはなこども園・なのはな子育てひろば・<br/>なのはな病児病後児保育室<br/>〒534-0023<br/>大阪市都島区都島南通1-9-1<br/>電話 6921-6818 FAX 6921-6819<br/>http://nanohana-hoiku.or.jp</div> | <div>社会福祉法人<br/><b>なみはや福祉会</b></div> <div>理事長 竹 本 榮</div> <div>〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>大阪市立社会福祉センター内<br/>電話 6761-3010 FAX 6761-8922<br/>https://www.namihaya.or.jp</div>                        |
| <div>社会福祉法人<br/><b>日本ライトハウス</b></div> <div>理事長 橋 本 照 夫</div> <div>〒538-0042<br/>大阪市鶴見区今津中2-4-37<br/>電話 6961-5521 FAX 6968-2059<br/>http://www.lighthouse.or.jp/</div>  | <div>社会福祉法人 <b>博 愛 社</b></div> <div>理事長 畑 野 研太郎</div> <div>〒532-0028<br/>大阪市淀川区十三元今里3-1-72<br/>電話 6301-0367 FAX 6301-5347<br/>https://www.hakuaisha-welfare.net/</div>   | <div>やさしさと思いやりのある介護<br/>社会福祉法人<br/><b>ビーナス福祉会</b></div> <div>理事長 田 村 文 子</div> <div>〒551-0003<br/>大阪市大正区千島1-23-26<br/>電話 6553-4800 FAX 6553-7771<br/>http://www.venushome.jp/</div>                        |
| <div>社会福祉法人<br/><b>みおつくし福祉会</b></div> <div>理事長 田 丸 卓 嗣</div> <div>〒543-0021<br/>大阪市天王寺区東高津町12-10<br/>電話 6765-5611 FAX 6765-5614<br/>https://www.miotsukushi.or.jp/</div>  | <div>公益社団法人<br/><b>大阪社会福祉士会</b></div> <div>ソーシャルワークの専門職団体として<br/>これからも、大阪府民の生活と権利を<br/>支えつづけます！</div> <div>〒542-0012大阪市中央区谷町7-4-15<br/>大阪府社会福祉会館内<br/>電話 4304-2772 FAX 4304-2773<br/>http://www.oacsw.or.jp</div>  | <div>まかせてください その仕事！<br/>公益社団法人<br/><b>大阪市シルバー人材センター</b></div> <div>本 部 城東区関目3-1-14 電話 6931-0221<br/>南部支部 天王寺区東高津町12-10 電話 6765-6116<br/>西部支部 西区立売堀4-10-18 電話 6543-7011<br/>北部支部 北区池田町1-50 電話 6882-3830<br/>訪問介護事業所 城東区関目3-1-14 電話 6180-1010<br/>(本部事務所併設)<br/>http://www.osakasc.or.jp</div> |
| <div>あふれる笑顔<br/>社会福祉法人 <b>優 心 会</b></div> <div>理事長 垣 谷 隆 太</div> <div>・介護老人福祉施設 ・通所介護<br/>・短期入所生活介護 ・居宅介護支援事業<br/>〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺3丁目2番3号<br/>電話 06-6700-8000 FAX 06-6700-8400<br/>https://yuushinkai.or.jp</div>                   | <div>社会福祉法人<br/><b>路 交 館</b></div> <div>理事長 尾 埜 健 二</div> <div>〒533-0023<br/>大阪市東淀川区東淡路2-7-5<br/>電話 6321-3955 FAX 6325-6320<br/>https://www.rokoukan.or.jp/</div>   | <div>人に寄り添う福祉を学ぶ<br/><b>関西福祉科学大学</b></div> <div>社会福祉学部<br/>福科大 福祉 検索<br/>大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1 ☎072-978-0088</div>   |
| <div>学校法人 田島学園(奈良東病院グループ)<br/><b>近畿社会福祉専門学校</b><br/>厚生労働大臣指定(介護福祉士養成校)</div> <div>理事長 鉄 村 俊 夫<br/>学校長 池 田 眞 弓</div> <div>〒534-0025 大阪市都島区片町1-5-13<br/>大手前センチュリービル3階<br/>電話 6136-1117 FAX 6136-1115<br/>http://www.kinki-swc.ac.jp</div> | <div>社会福祉法人 <b>きれ福祉会</b></div> <div>理事長 大久保 孝</div> <div>障がい福祉サービス事業<br/>就労継続支援B型事業所 ユーアンドアイ<br/>共同生活援助 スマイルホーム</div> <div>〒547-0025 平野区瓜破西1-8-45<br/>電話 6799-5112 FAX 6799-5113</div>   | <div>社会福祉法人 <b>春 栄 会</b></div> <div>理事長 下 農 勝</div> <div>特別養護老人ホーム リベルタヴィータ<br/>短期入所生活介護<br/>グループホーム たんぽぽの里</div> <div>〒538-0043 大阪市鶴見区今津南3丁目5-5<br/>電話 本館06-6963-6360 新館06-6963-6381<br/>FAX 06-6963-6361<br/>https://www.liberta-vita.jp/</div>  |
| <div>記念誌、広報紙の編集・発行を請け負います<br/><b>一般社団法人 檸檬新報舎</b></div> <div>代表理事・編集長 平 田 篤 州<br/>理事・東京支部長 末 永 良 一<br/>理事・編集委員 水 流 添 綾<br/>理事・編集委員 横 須 賀 文</div> <div>〒541-0046 大阪市中央区平野町2-2-9 ビル皿井701<br/>TEL 090-7765-1812 れもんしんぼう 検索 出版 法人史</div>    | <div></div>  |  |

|   |   |  |
|---|---|--|
| <div>社会福祉法人 <b>一 隅 苑</b></div> <div>理事長 和 田 偉 夫</div> <div>我孫子地域在宅サービスステーション<br/>・デイサービスセンター<br/>・ホームヘルプセンター<br/>・ケアプランセンター<br/>・総合相談窓口(プランチ)<br/>〒558-0013 大阪市住吉区我孫子東1-4-37<br/>電話 4700-1000 FAX 4700-1009</div>   | <div>社会福祉法人 <b>今 川 学 園</b></div> <div>理事長 魚 住 誠 一</div> <div>保育所・隣保館・子どもの家・<br/>キンダーハイム・大和川園・今林の里・<br/>ふれあいホーム・ハーモニー・<br/>ワークセンターいまがわ<br/>〒546-0001 大阪市東住吉区今林3-1-87<br/>電話 6713-6106</div>  | <div>社会福祉法人 <b>海 の 子 学 園</b></div> <div>理事長 間 口 敦 生</div> <div>児童養護施設 入舟寮<br/>児童養護施設 池島寮<br/>病後児保育室 げんぎっこホーム<br/>〒552-0015 大阪市港区池島3-7-18<br/>電話 6571-1000 FAX 6573-9102</div>  |
| <div>社会福祉法人<br/><b>みなと寮</b></div> <div>理事長 大 西 豊 美</div> <div>〒586-0052<br/>河内長野市河合寺423番1<br/>電話 0721-62-3700 FAX 0721-62-3711<br/>http://www.minatoryo.or.jp/</div>           | <div>社会福祉法人<br/><b>大阪重症心身障害児者を<br/>支える会</b></div> <div>理事長 小 原 英 輔</div> <div>〒545-0021<br/>大阪市阿倍野区阪南町2-23-11<br/>電話 6622-3759 FAX 6622-3769<br/>E-mail center@sasaeru.or.jp</div>  | <div>社会福祉法人<br/><b>大阪福祉事業財団</b></div> <div>理事長 茨木 範宏<br/>常務理事 勝原 祐子<br/>事務局長 桑 原 一 章</div> <div>〒536-0001 大阪市城東区古市 1-7-8<br/>電話 6931-0098 FAX 6933-1699<br/>mail:since1948@zaidanosaka.or.jp<br/>https://zaidanosaka.or.jp/</div> |
| <div>社会福祉法人 <b>柿の木福祉の園</b></div> <div>理事長 宮 川 友理子</div> <div>長居保育園 長居保育園乳児センター<br/>長居子どもの家<br/>長居西地域在宅サービスステーション ながいの里<br/>居宅介護支援事業所 ながいの里<br/>児童発達支援 こすもす<br/>〒558-0004 大阪市住吉区長居東4-11-16<br/>電話 6691-3669 FAX 6691-8292<br/>http://www.kakinoki.or.jp</div>      | <div>社会福祉法人 <b>久 栄 会</b></div> <div>理事長 岩 崎 久仁子</div> <div>〒544-0013 大阪市生野区巽中3-14-3<br/>電話 6756-5200 FAX 6756-6688<br/>http://www.minori-en.com/</div>  | <div>社会福祉法人<br/><b>都 島 友 の 会</b></div> <div>理事長 渡 久 地 歌 子</div> <div>〒534-0021<br/>大阪市都島区都島本通3-4-3<br/>電話 6921-0321 FAX 6924-2055<br/>https://www.miyakojima.or.jp</div>  |
| <div>社会福祉法人 <b>高 津 学 園</b></div> <div>理事長 田 尻 達 朗</div> <div>児童養護施設 高津学園<br/>児童養護施設 報恩寮<br/>障害児入所施設 法然寮<br/>障害者支援施設 知恩寮(以上、天王寺区)<br/>児童養護施設 信太学園(和泉市)<br/>〒543-0017 天王寺区城南寺町1番10号<br/>電話 6761-1663 FAX 6768-1653</div>  | <div>社会福祉法人 <b>治 栄 会</b></div> <div>理事長 大 森 秀 之</div> <div>〒534-0027<br/>大阪市都島区中野町5-10-70<br/>電話 4253-8055 FAX 4253-8066<br/>https://www.jieikai.or.jp/</div>   | <div>社会福祉法人 <b>四 恩 学 園</b></div> <div>理事長 中 西 裕</div> <div>●乳児院 ●児童養護施設 ●里親支援センター 結い・eye<br/>●保育園(3園)・子育て支援・子どもの家(学童)<br/>●ふれ愛の館しおん デイサービス・ホームヘルプ<br/>●地域密着型特別養護老人ホーム<br/>居宅介護支援事業所・住吉区東地域包括支援センター<br/>〒558-0011 大阪市住吉区荻田4-3-9<br/>電話 6607-2220 FAX 6696-5347<br/>http://shiongakuen.or.jp</div>                     |
| <div>社会福祉法人<br/><b>四天王寺福祉事業団</b></div> <div>理 事 長 塚 原 昭 人<br/>常務理事 廣 瀬 善 重<br/>常務理事 新 井 順 澄</div> <div>〒543-0051<br/>大阪市天王寺区四天王寺1-11-18<br/>電話 6771-7971 FAX 6771-8961</div> | <div>社会福祉法人 <b>晋 栄 福 祉 会</b></div> <div>理事長 濱 田 和 則</div> <div>〈鶴見区〉茨田大宮ちどり 施設長 柿元 裕二<br/>〈都島区〉東野田ちどり保育園 園 長 江川永里子<br/>〈城東区〉城東ちどり保育園 園 長 山本 信吾<br/>〈東成区〉大阪市立東中本保育所 所 長 高田 幸代<br/>〈大正区〉大阪市立北恩加島保育所 所 長 石坂 倫子<br/>〈北 区〉中之島ちどり保育園 園 長 小林 操<br/>〈中央区〉御堂筋本町ちどり保育園 園 長 高平 友子<br/>〈福島区〉新福島ちどり保育園 園 長 富岡 智美</div>   | <div>社会福祉法人<br/><b>しんもり福祉会</b></div> <div>理事長 松 野 五 郎</div> <div>平和の子保育園 平和の子どもの家<br/>子育て支援センター 大阪市立両国保育所</div> <div>〒535-0022 大阪市旭区新森7-1-5<br/>電話 06-6954-0524 FAX 06-6954-1961<br/>heiwa-ko@vega.ocn.ne.jp<br/>http://www.shinmori-fukushikai.or.jp</div>  |
| <div>社会福祉法人 <b>水 仙 福 祉 会</b></div> <div>理事長 松 村 寛</div> <div>〒533-0004<br/>大阪市東淀川区小松1-13-21<br/>電話 6328-3786<br/>FAX 6328-3788<br/>E-mail honbu@suisen.or.jp<br/>http://www.suisen.or.jp/</div>   | <div>社会福祉法人 <b>誠意・信頼・感謝<br/>社会福祉法人 スワンなにわ</b></div> <div>理事長 樋 口 恵 光</div> <div>居宅介護支援事業所 認知症対応型デイサービス<br/>デイサービス 就労継続支援 B 型事業所<br/>認知症対応型グループホーム 浪速区障がい者基幹相談支援センター<br/>児童デイサービス デイケアセンター夢の希<br/>〒556-0026 大阪市浪速区浪速西2-11-6<br/>電話 6562-0456<br/>https://swannaniwa.com</div> | <div>社会福祉法人 <b>聖 家 族 の 家</b></div> <div>理事長 上 利 久 芳</div> <div>児童養護施設 聖家族の家<br/>乳児院 聖母託児園<br/>児童心理治療施設 児童院<br/>テルミエ診療所</div> <div>〒546-0033 東住吉区南田辺4-5-2<br/>電話 6699-7221 FAX 6699-7243<br/>E-mail holyfamily@luck.ocn.ne.jp</div>   |





令和7年度社会福祉講演会

## 福祉の今を知る！大阪市内の福祉活動の実践報告会 ～同心会研究奨励賞・研究努力賞・会長賞 受賞論文より～

大阪市社会福祉研修・情報センターは10月25日、「福祉の今を知る！大阪市内の福祉活動の実践報告会」同心会研究奨励賞・研究努力賞・会長賞 受賞論文より」を開催しました。これらの研究論文が掲載されている「大阪市社会福祉研究」は大阪市社会福祉研修・情報センターにおいて、社会福祉に携わる団体や個人がおこなった研究活動の成果を募集し、とりまとめたものです。当日は、63人が参加し、第一部では基調講演があり、第二部では同研究誌47号（令和6年12月発行）に掲載され受賞した実践者の報告がありました。

### 同心会とは？

大阪市における社会福祉に関する研究および実践活動の奨励を目的として、昭和58年12月に発足。同会では、研究誌「大阪市社会福祉研究」に掲載された研究論文から優秀作品を選び、「研究奨励賞」などを授与しています。

### 「生活困窮者自立支援から地域共生社会へ」

第一部では、厚生労働省大臣官房参事官の本後健さんから、「生活困窮者自立支援から地域共生社会へ」社会保障の新たなステージ」と題し、講演がありました。

本後さんは、「生活困窮者自立支援制度から10年経ち、第3の幕が開けていると私は考えています。第1幕は、生活困窮者自立支援法の成立です。2008年にリーマンショックや年越し派遣村の事態があり、若者世代のセーフティネットに穴が開いていることを知り、制度化の検討が開始されました」と話しました。

続けて、本後さんは、「第2幕は、生活困窮者自立支援制度から地域共生社会へと、相談支援は流れであるため、地域のなかでその流れをどのようにしていくか。また、社会的孤立という要素を含めた形で生活困窮者の定義をできるだけ柔軟にくするため、2018年に生活困窮者自立支援法の改正に至り

ました。」さらに、「コロナ禍の生活の下支えに大きな役割を果たし、2024年にも改正されました」と語りました。

最後に本後さんは、「現在は、典型的なリスク（対象が明確で、解決策もある程度一義的）へ対応する仕組みを構築できているが、社会保障制度の射程は、非典型的なリスク（対象の線引きが明確ではなく、解決策も一義的ではない）にも拡大されようとしています。制度の狭間があり、どうすれば解決できるかわからない課題が見えてきたなか、第3幕として、生活困窮者自立支援制度を軸とした包括的な支援体制の整備を推進するなど、制度の機能を強化することが求められています」と話しました。



▲生活困窮者自立支援制度の誕生から現在求められている対応について本後さんから講演

### 研究奨励賞

#### 報告 救護施設における心理アセスメントの取り組み

報告者 豊田祥平さん



現在の救護施設入所者の心理学的特徴を明らかにするため、令和元年4月から令和5年10月までの期間において、大阪市内で所管する13の救護施設の入所者のうち臨床心理職員が心理アセスメントを実施した475人を対象とした研究発表がありました。

豊田さんは、「救護施設入所者と非臨床群の人を比較すると、救護施設入所者は不安が高く、過敏で被害的、時に粗野で軽率な行動を起こす特徴があります。表面には見えにくい内的な虚弱性によって安定した人間関係を維持しにくいことがあります」と話しました。

今後として、豊田さんは、「幼少期の発達早期における問題が成人後も影響しており、支援においても関わり方の質の向上や長期的な対応が求められます。知的に境界域、発達障がいグレーゾーンに該当する対象者をどう理解し、支援につなげるかが課題です。単にアセスメントをして終わりではなく、引き続き心理職や介護職などと連携し、救護施設のなかでもチームでアプローチしています」とまとめました。

### 研究努力賞

#### 報告 生活困窮者自立支援制度の支援会議の実態と参加者にとっての意義

一大阪市西淀川区における会議参加者アンケートの質的分析

報告者 大里祥さん



西淀川区の生活困窮者自立支援制度における支援会議の実態及び会議参加者にとっての支援会議の意義を明らかにすることを目的として、31回の支援会議（令和5年度）における199人の事後評価アンケートの回答から質的分析をおこなった研究発表がありました。

大里さんは、会議の参加者が実感し得る支援会議の意義は、会議進行の各段階に沿ったものとグループの相互作用により促進されるものの2つであり、2つの相乗により意義の促進及び支援行動の動機づけ、継続的な検討への意欲につながります。相乗に向け、運営者側のファシリテーション技術や事前事後の調整が重要であるため、支援関係者と支援会議を重ねることでの技術や知識の蓄積とともに、各福祉分野の法定化されたケア会議との共催による地域全体としての各種会議運営の集約化に努めています。

大里さんは、今後も「参加者が支援会議の意義を実感できるように、会議の運営の改善に努めていきたい」と語りました。

### 会長賞

#### 報告 在宅認知症高齢者への通所介護利用から継続できる支援と安心できる施設入居に向けた取り組み

～環境支援指針PEAP日本版3を通じた実践～

報告者 亀井章さん



在宅生活を送る認知症高齢者と家族の思いとの違いや、施設入居後の混乱等も多いことから、通所介護サービスにおける環境づくりの介入が必要だと感じた背景から、環境支援指針PEAP日本版3を用いて当該事業の仕組みすべてを環境と捉え、運営方針等含めて多面的視点で実施し、考察した研究発表がありました。対象では、期間中実施した通所介護から併設の特別養護老人ホームへ入居となった群と、同時期に他介護事業所または在宅から直接入居となった群に分けてランダムに各郡から5人選出して各生活場面での行動観察を比較して分析しました。

亀井さんは、「食事において、人数や時間、費用を中心に考えては提供しやすいものとなるため、管理栄養士と担当職員が中心となり、利用者も含めてみんなで考えた食事の提供ができるようイベントにしました。自宅で好んで食べているもの、出生地域で食べていたもの等を話し合って献立にし、1ヵ月の提供スケジュールを作成して玄関に大きく掲示しました。採点制度の導入や、自宅での様子や言動、意欲の変化等も伺い、ご利用者だけでなく担当職員やその他職員の意欲にも変化がありました。結果として、専門職員の視点と役割に焦点を当てた介護職員が主体となる展開へととなりました」とまとめました。

### PEAP日本版3

施設に入居している認知症高齢者に対して、広い意味での環境支援を行うための指針です。指針は大きく8つの次元により構成されています。8つの次元は、認知症の方への環境支援の柱（目標）となる項目です。また、それぞれの次元の下には、環境支援のポイントとなる中項目、さらに支援の具体例が記された小項目により構成されています。

参考：認知症高齢者への環境支援のための指針  
PEAP日本版3 2002-2005ケアと環境研究会

### 会長賞

#### 報告 個別療育という「価値」について ～作業療法、自立神経系、情緒への支援という視点からの考察～

やぎした  
報告者 柳下雄大さん



児童発達支援、放課後等デイサービスでの個別療育の実践を通して、個別療育の価値について考察することを目的におこなった報告がありました。事例では、個別療育が親子の時間として機能した例で、対象児は男児でASDの診断があり、一人っ子から双子のきょうだいができ、父と母ともに双子に手がかかるようになり、親子の触れ合いの時間が減り、環境の変化から家庭内での癇癪が増えました。個別的な対応をしつつ、利用開始から4年後、兄としての自覚が芽生え、癇癪は減り、落ち着いていきました。

柳下さんは、「個別療育の価値は、日常という環境から一時的に離れ、役割から解放される作用です。環境の影響を除いた特性、発達上の課題が捉えやすくなり、相談・対応・実践をおこないやすくなります。本人だけでなく、家族、周囲の人々にも影響し、日常、社会を見据えた『非日常』であります」と語りました。



## 介護支援専門員の 質の向上

大阪公立大学大学院生活科学研究科 准教授 鵜浦直子

2040年には65歳以上の高齢者数がピークを迎えるとともに、介護と医療の複合的なニーズを抱える85歳以上人口が増加すると予測されている。また人口減少も進行し、高齢者を地域で支えるためのサービス供給体制の維持が大きな課題となっている。その中でも、介護人材の確保は重要な課題である。

これらの課題は、「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会で議論され、2025年7月25日に議論のとりまとめが公表された。この検討会を踏まえ、社会保障審議会介護保険部会でも介護人材確保に関する議論が行われている。同部会では、2025年10月27日に、負担軽減の観点から介護支援専門員の更新制を廃止する案が提示された。

現行制度では、介護支援専門員の資格の有効期間は5年であり、更新時には研修の受講が必須となっている。しかし、更新研修については時間的・経

済的負担が大きいとの声があるとともに、更新時の研修受講が離職の要因にもなるとの指摘もある。介護支援専門員の更新制は、質の向上を目的として導入されたものであるが、負担が増し、介護支援専門員を続けることを敬遠させる要因となつては本末転倒である。さらに、今後は、身寄りのない高齢者などの増加も見込まれ、介護支援専門員は高齢者の地域生活を支えるために法定外の業務を担わざるを得ない状況に置かれる場合もあり、負担が集中することが予測される。その結果、介護支援専門員の成り手はさらに減少するとともに、専門性を十分に発揮する余裕も失われ、質の低下につながるおそれもある。

したがって、介護支援専門員の人材確保と質の向上を図るためには、更新制の是非にとどまらず、労働環境の改善や処遇改善などを含めた包括的な取り組みが不可欠である。